

郷土史抄

故濟先生の遺影を偲ぶ

(瀧川家の史料採訪)

鯉川 漁史

(三) 輪王寺宮東御かん柄に診仕奉る

仙台藩士は既に會津攻撃の主謀者世良參謀を斬り、奥羽に電報して、將に其の大同盟成らんとする、五月十五日、上野敗退の徒は、輪王寺宮を奉じて遁れ、海路二十八日の黎明、常奥の要港なる平瀨に著航した。是れに於いてか、奥羽諸藩は競うて宮を恭迎し、御玉休の恙なきを問安し奉つた。其の時泉藩は醫師瀧川濟、藩葉昇元を急派して玉休を出診し、是の夜、領内甘露寺に御假泊し給ふや、更に濟の父(伯父)かをも加へて診伺せしめた。

二十九日、平飯野八幡神主宅に、三十日中寺村庄屋田子傳吉宅に各一泊、六月朔日會津を指して向はせられ、夫れより米澤に移行、薄いで仙台に至らせ、七月十二日白石に御徙りし、茲に始めて宮の東奥に御たん柄し給ふ所以が明かにされた。乃ち會仙米の諸士は宮に哀願、懇訴して薩長討伐の旨を乞ふたので、御心ならずも之を下し賜うた。是れ五月以來、白石城を以て奥羽到藩の策源所に定め、且つ之が公認府に擬し、恐れ多くも宮を軍事總督に擁し奉り東征の官軍、否維新の大業に乗じて榮威を振ふ薩長の兵と戦ふべく決した。斯くて偶然にも宮の御入奥を重大の機として、諸藩の向背は、俄然急變し、即ち奥羽成敗は悲壯にも此に展開されたのである

是より先、去々月二十九日瀧川濟は銀外花立山にて其の御診役を解かれ、他藩の醫師をして之に更替することとなつたが、彼れは固より勤王の志に厚く、宮の近侍鈴木宗彦守に嘆願して、強ひて其の診仕を乞ひ、非公式に許されたので、家僕萬藏を伴れて駕に隨ひ、遂に會津まで重任を果し會津を去るに臨み若松城に御機嫌を奉伺して御訣別を言上し、向は四五日滯土して藩情を探り、六月十五日、無事歸藩し、此等の次第を藩老に復命した。嗟呼是れ一に泉藩の勤王に基くと雖も、其の士にして然かも微敵二十九歳の醫師瀧川濟が勤王事の前には何ものも屈せざる精神であり明治維新に直面して、最初の之が實効であるのは、磐城三藩に其の者の比を見ずと言ひたす。



◆一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社
印刷部

最新流行の「流線型」
お履物は、上品な日和下駄、皮製の草履、
品が豊富で、
値段的に安い
會津桐 小松履物店
自製製門 平野製履通(電話六七三)

(磐城共済病院) 福島縣平町電六四一
内科 院長 醫學博士 石山謙助
小兒科 部長 醫學士 藤山尚輔
外科 部長 醫學士 五十嵐雄二
皮膚泌尿科 部長 醫學士 町久藏
器病科花柳病科 部長 醫學士 山澤
X線科 部長 醫學士 石山謙
藥局 部長 醫學士 鈴木本寶
事務局長 鈴木本寶
(毎日午前八時より午後十時迄診察) ●病室完備 ●入院隨意 ●

耳鼻咽喉科専門
醫學士 鈴木正男
平町田町(電話五八番)藤田女學校前
入院應需 鈴木醫院

清爽簡易なサンマードレス
婦人用のお子さん用……
特價品豊富陳列
ツルヤ
平四 電一四〇

安出系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店 關内正一
平町二丁目 電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎

朝日
金屋商店
突煙ふたぐり

| | | | | | | | |
|------|-------|---|-----|-----|-----|-----|-------|
| しづかに | 食事の出来 | る | 正しい | 正しい | 正しい | 正しい | 平町町 |
| 酒場 | 茶 | 堂 | 酒場 | 酒場 | 酒場 | 酒場 | レストラン |

スペインG・H・N 元話
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10
初婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
(平2) 西村屋藥舖 (電3)

石炭 炭
コークス 炭
豆炭
平町郵便局通
水野石炭店
電話二九九番

入院 應需
明雲堂眼科醫院
平野前 電六六九番
●自次の便あり●
鼻の諸病に快鼻湯 有効保証
本劑は漢方醫の方劑で鼻病の爲め種々の外用薬並に内服薬を用ひ全治せざる方々及び手術後再發されし方々も本劑の服用により快癒された喜びの報告が各地から参つて居ります
蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多過症、頭重、肥厚性鼻炎、その他鼻背灣曲症、並に中耳炎に神効の實證を受く

(快鼻湯) 製劑販賣元 水野藥局
磐城平町一丁目(電話六九九番)
振替口座仙台(八八七六番)

表代城磐 酒銘
美味經濟 山崎合名會社
香油醬
社會名合崎山 番十話電

好評 たる各種優秀藥
カクレー (三十三日分) 定價一圓四角
強力驅毒劑 スピロイン (定價二圓) (五圓十圓)
平町五丁目角
特約販賣店 山野邊藥局